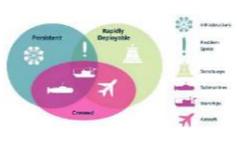


| 整理番号 | 発刊日 | Title | タイトル訳 | 出典 | 所見等 | 情報提供者 |
|----------|-----------|--|---|--|--|-------|
| 2024 -33 | 2024/2/20 | Australia To Bet Big On Heavily Armed, Optionally Crewed Warships | 【豪新艦隊整備計画】 オーストラリアは重武装で人の乗組みもできる艦艇に大きな賭けをする | War Zone 2024/2/20 |  最近、豪州が新たな艦隊整備プランを発表しています。30FFMもその候補に入っています。Optionally-Crewed ship (オプションで人が乗組むこともできる艦)というのが焦点のひとつになっています。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -34 | 2024/2/24 | US Navy orders Swiftships to stop work on its landing craft program | 【米海軍揚陸艦計画中止】 Swiftships社に揚陸艦計画の作業中止を米海軍が命令 | Defense News 2024/2/24 |  米海軍が、建造中の揚陸艦LCUの納期が遅延していることを理由に計画自体をキャンセルしました。すでに7隻を契約済みの状態です。記事を読むと契約解除の原因は造船所側に一方的にあるのではなく発注したNAVSEAの度重なる設計変更も一因のようです。しかし一旦複数隻を発注し多額の契約を締結しながら建造中止に踏み切るとは、日本ではちょっと考えられません。 | 佐々木司 |
| 2024 -35 | 2024/2/28 | Attack Sub Boise Overhaul At Risk Under One-Year Continuing Resolution | 【米原潜修理予算関連】 原潜「ボイシ」の工事は1年間の継続予算決議(Continuing Resolution)で危うくなる | USNI News 2024/2/28 |  アメリカの予算制度はたいへん複雑です。13本の歳出法案の大部分は、新年度(2024年度は2023.10.1~)が始まる10月1日までには通常は成立せず、新年度が始まってからすべての歳出法案が成立するまでの間は予算継続決議(continuing resolution)によって政府活動が行われます。この予算継続決議により「つなぎ予算案(stop-gap spending bill)」で数か月をつないでゆきます。もし、つなぎ案の期限を過ぎても次の新たなつなぎ案が可決されないと、一部の政府機関が閉鎖される「政府機関閉鎖」に追い込まれるということです。ただ、つなぎ案が可決しても海軍は260億ドルの予算が不足(正規予算要求の13%分に相当)するという別の問題が発生し、先にお伝えした原潜「ボイシ」の工事が危機的な状況になっている、というのが今回の記事です。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -36 | 2024/2/1 | Adopt Laser Cleaning for Navy Maintenance | 【レーザークリーニング整備】 海軍の整備にレーザークリーニングを採用せよ | Proceedings 2024/2/1 |  古い塗装の剥離作業などにレーザー装置を使おう、という提言です。従来のグラインダーなどの騒音による聴覚障害や振動による手のしびれ、破片による被害などは防止できそうで、乗員の安全衛生上は優れています。作業後の塗料の付着性も優れているということです。米海軍はまだ正式採用はしていませんが、採用に向けての動きがあります。米海軍が躊躇している理由は、コスト面とレーザーの母材に対する影響とのことですが、陸軍と空軍は既に採用しています。プロシーディングス誌2月号から(下線は訳者)。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -37 | 2024/2/6 | Navy Aegis Ballistic Missile Defense (BMD) Program: Background and Issues for Congress | 【米海軍BMD関連議会報告】 米海軍のイージス弾道ミサイル防衛(BMD)プログラム: 背景と議会への問題提起 | Congressional Research Service 2024/2/6 |  米議会調査局(CRS)報告「イージスBMDプログラム: 背景と問題」について最新版を頑張って訳しました。量は多いですが、巻末の発射試験の表を見るだけでも面白いです。下線は訳者。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -38 | 2024/2/20 | Australia To Double Fleet Size With Small Warships | 【豪海軍整備計画関連】 オーストラリアは小型艦艇で艦隊サイズを倍にする | Naval News 2024/2/20 |  先日配信したオーストラリア艦隊整備計画を別の角度からみた、オーストラリアに悲観的な記事です。予算や労働力の問題に加え、今までの造船所の態勢などから、なんとなく頷けます。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -39 | 2024/3/7 | SECNAV Del Toro Tells U.S. Shipyards 'Invest More', Encourages Foreign Investment | 【米海軍長官動向】 デル・トロ海軍長官が米造船所に「もっと投資せよ」と言い、海外投資も奨励 | USNI News 2024/3/7 |  先月末、デル・トロ海軍長官が日韓の造船所を視察して回ったということです。米国内の造船所の問題を解決するために、同盟国の造船所に活路を見いだそうとしています。問題とは、労働力枯渇、建造コスト膨張、整備工期遅延などですが、米企業トップの怠慢に業を煮やしているようです。比較として、日韓の造船所は商船と艦艇の両輪で事業が成り立っていますが、米国は艦艇オンリーなので基盤的にはハンディがあると思います。(下線は訳者)巻末の読者コメントが秀逸です。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -40 | 2024/3/4 | Austal USA Delivers Second-to-Last Independence Littoral Combat Ship | 【米海軍LCS2引渡関連】 オースタルUSAは最後から2番目のインディペンデンス級LCSを引き渡す | USNI News 2024/3/4 |  インディペンデンス級LCSの最後から2番目の艦が海軍に引き渡され、夏の就役を予定、という記事です。米海軍は将来、同級を対機雷戦として使う予定と記事にはあります。(ミッション・モジュールが完成次第?) 現在、インディペンデンス級15隻は全てカリフォルニア州サンディエゴ基地に配備され(フリーダム級は退役した以外の7隻が全てフロリダ州メイポートに配備)、3個隊(各隊4隻)を構成し、隊の中の1隻は訓練専用艦として、残りの3隻のローテーション乗員の支援をする、という体制になっています。 | 岩崎洋一 |

| 整理番号 | 発刊日 | Title | タイトル訳 | 出典 | 所見等 | 情報提供者 |
|----------|------------|--|--|---|--|-------|
| 2024 -41 | 2023/12/4 | Dynamic Messenger 2023: Extending the Envelope of Unmanned Capabilities at Sea | 【欧州無人機関連】 ダイナミック・メッセンジャー2023 (NATO演習):海上での無人能力の限界を広げる | European Security & Defence 2023/12/4 |  昨年のNATO演習において無人アセットに焦点を当てたもので、オブザーバーとして日本も参加しています。演習の第一の目的は、無人システムに関する新しい戦術とドクトリンを検証し、NATOの2つの常設対機雷グループへの統合に備えるもので、まさに各種無人機を実戦運用する段階まで進んでいます。 | 工藤悟 |
| 2024 -42 | 2024/3/12 | Navy postpones several modernization programs to pay for operations | 【米海軍予算事情】 海軍、運用費用捻出のため複数の近代化計画を延期 | Defense News 2024/3/12 |  紅海でのHouthi派勢力による艦船攻撃への対処など、米海軍は24年度予算編成時に想定していなかった様々な事態に対応するため、予算編成で厳しいメリハリを求められています。作戦運用と人員確保を最優先とする一方で、開発に長期を要する新型装備品などは開発の延期も決断しています。そこには急激に予算を増額できない法律の縛りもあるようです。 | 佐々木司 |
| 2024 -43 | 2024/3/1 | The Royal Navy's future vision for the underwater battlespace | 【英海軍の将来水中戦ビジョン】 英海軍の水中戦闘空間に関する将来のビジョン | NAVY LOOKOUT 2024/3/1 |  我が国と同様の島国英国において、益々必要性が増す、英海軍の海底インフラ・海上交通路の防護能力、対潜能力などの将来ビジョンです。脅威の増大に対して、従来プラットフォームの大拡充は現実的ではないため、ここに柔軟な展開ができる自律型無人ビークルに任務を補完させようとしています。しかも、単なる補完ではなく、監視・情報配布など能力の飛躍的向上を目指しています。その実現には、軍産学の協力態勢が重要な役割を果たしている模様です。 | 本山泰之 |
| 2024 -44 | 2024/3/7 | Damen and Saab agree on export of C-71 submarines | 【蘭・瑞企業の加潜水艦提案】 ダーメンとサーブ、C-71潜水艦の輸出で合意 | NAVALTODAY 2024/3/7 |  カナダ海軍の次期潜水艦に対して、韓国企業と英系企業の動向に加え、オランダとスウェーデンの企業連合も名乗りを上げました。詳細は不明ですが、難産のうえ、スウェーデンで建造中のA26が基礎になることは間違いないようです。この連合にも、英国の関与があると記述があります。英連邦諸国への輸出に関しては、英国との関係は重要な意味を持つと想像されます。継続して動向を注目していきます。 | 本山泰之 |
| 2024 -45 | 2024/3/1 | World's biggest arms importer India is pursuing defence "indigenisation" | 【印軍需産業情報】 「世界最大の武器輸入国インドは「国産化」を推進」 | Naval Technology 2024/3/1 |  全方位外交のインド、なかなか真相をつかめません。急速な経済成長に加え、人口が中国を抜いて世界一となるなか、IT部門をはじめ知的潜在能力の高さは目を見張ります。ここに来て、「自立したインド」を目指すために、世界最大の武器輸入国でありながら武器の国産化に舵を切ろうというのです。その中心人物が、モディ首相との癒着(?)を言われている大富豪アダム氏です。 | 工藤悟 |
| 2024 -46 | 2024/3/6 | Rearming US Navy ships at sea is no longer an option, but a necessity | 【米海軍洋上弾薬搭載】 米艦艇の洋上での弾薬搭載はもはや選択肢ではなく必要不可欠なものに | Defense News 2024/3/6 |  イエメン沖でのフーシ派攻撃に米駆逐艦が何を用いて防御しているかは、具体的には公にされていないと思いますが、この記事を読む限り、米駆逐艦はかなりの量のVLSミサイルで対処して、弾を消耗しているようにも思えます。洋上でのVLS再装填が死活的に重要だと海軍長官もWESTで述べています。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -47 | 2023/3/28 | US Navy prioritizes 'game-changing' rearming capability for ships | 【米海軍洋上弾薬搭載】 米海軍は「ゲームチェンジ」となる艦への再装填能力を優先する | Defense News 2023/3/28 |  今年のWESTでもデル・トロ長官が述べていた、洋上でのVLS再装填に関する1年前の記事です。巻末に、訳者の愚見を付けました。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -48 | 2024/3/11 | New Navy Budget Seeks 6 Battle Force Ships, Decommissions 19 Hulls in FY 2025 | 【米海軍予算要求関連】 海軍の新予算は6隻の戦闘艦を要求、2025年度に19隻を退役させる | USNI News 2024/3/11 |  米海軍の2025年度(2024.10.1~2025.9.30)予算要求の全容です。海軍・海兵隊合わせて2,576億ドルを要求しています。巻末に海軍と海兵隊の予算内訳を表とグラフにまとめました。 | 岩崎洋一 |
| 2024 -49 | 2023/12/21 | New Israeli tech, munitions bring IDF success in Gaza war - analysis | 【イスラエル軍事技術】 「イスラエルの新技術、軍需品がガザ戦争でイスラエル国防軍を成功に導く - 分析」 | European Security & Defence 2023/12/21 |  イスラエルとガザとの争いは、ハマスによる人質の解放が膠着していた中、イスラエル側の攻撃も中断することなく終わりが見えない状況が続いています。北部から南部へと狭いエリアに逃げ込んだ避難民は、食料、医療も確保できず、危機的な人道問題が生じている報道とは裏腹に、イスラエル軍は新技術の実戦使用と軍需品の現地生産を増加させています。国際社会は傍観者のままでいいのでしょうか。 | 工藤悟 |

| 整理番号 | 発刊日 | Title | タイトル訳 | 出典 | 所見等 | 情報提供者 |
|----------|-----------|---|--|---------------------------|---|-------|
| 2024 -50 | 2024/3/11 | DragonFire – pathway to a Laser Directed Energy Weapon for the Royal Navy? | 【英レーザー兵器開発動向】 DragonFire – 英海軍のレーザー指向性エネルギー兵器への道? | NAVY LOOKOUT 2024/3/11 |  英海軍のレーザー指向性エネルギー兵器(LDEW)の開発状況を示す記事です。昨今、フーシ派による艦船への無人機攻撃を受け、従来の対空武器の費用対効果が話題になっています。その解答の一つにLDEWが有力候補になることは間違ありません。また、運用コスト面だけではなく、従来兵器では対応できない目標への対処能力としても、将来性があると想像されます。急速な情勢変化に応じて、各国海軍は、他国と共同開発してまでもLDEWの実用化を急ぐ必要があると思いました。 | 本山泰之 |
| 2024 -51 | 2024/3/13 | It's time to appreciate energy's influence upon sea power | 【米海軍燃料関連】 今こそ、エネルギーが海軍力に与える影響を評価すべき時だ | Defense News 2024/3/13 |  海軍艦艇の運用に関し艦艇の燃料の観点から、どうすれば水上部隊をより効率的に運用でき、どうすれば燃料効率が上げられるのかなどに関する意見記事です。記事にある提案内容は、そのまま海上自衛隊の艦艇にも当てはまるなかなか参考になる内容です。 | 佐々木司 |
| 2024 -52 | 2024/3/1 | Every Ship a Carrier: How Artificial Intelligence Can Revolutionize the Air and Sea Domains | 【米海軍無人機関連】 すべての艦船を空母に: AIはいかにして空・海ドメインに革命をもたらすか | Proceedings 2024/3/1 |  最後に出てくる、「海軍は、水上艦船、潜水艦、航空機に焦点を当てたプラットフォーム・ベースの考え方から、イフェクト(効果)ベースの考え方へと移行しなければならない。」という言葉は予言的です。(下線は訳者) | 岩崎洋一 |
| 2024 -53 | 2024/3/21 | Navy Set to Test Joint Fires Network at Valiant Shield Exercise This Summer | 【米海軍演習関連】 海軍は今夏の「バリエント・シールド」演習で統合火力ネットワークをテストする | USNI News 2024/3/21 |  2年に一度行われる米陸海空軍の統合演習で、ストーブパイプのような各軍の指揮統制システムを一つにまとめ、各軍の別々のキル・チェーンに依存せず、代わりに、どの軍が得たターゲッティング情報でも共有して、最適のシューターが攻撃できる「キル・ウェブ」方式にシフトする訓練を実験する、と解きました。…誤っていればご指摘ください。 | 岩崎洋一 |